有難う

―高橋英雄　詩集―

第十七号

妻ファースト

令和3年12月

想いを尽し心を尽し
すべてを尽して
汝の妻を愛すべし
すべてを尽して愛するとは
妻才一　妻ファーストにすることだ
尽し方の足りない自分をゆるし
想い方の足りない自分をゆるし
世界平和の祈りの大光明に
足りない自分をお渡しつづけ
ひたすら妻を想いつづけて愛しつづける

愛するという一つの真理を
完璧に行じることのむずかしさを
悲しみつつ
なお完璧に愛しつづけようと努力している
夫という男の愛らしさよ

三人の母

令和3年12月17日

私には三人の母がいる
一人は私をこの世に生んでくれた肉親の母
一人は私の魂の親の守護霊さん
もう一人は私の前生の母

私をこの世に生んでくれた母は
美しい女性だった。
病気をして随分母に心配をかけた。
それもあってか九人兄弟姉妹の中で
一番愛してもらったと思っている。

はじめて五井先生に会った時
「あなたのうしろに60才ぐらいで亡くなった
おばあさんが守護霊としてついている」
と教えられた。
魂の親であるお母さんの顔を見たい
「いつも守って下さって有難う」と
顔を見て心からお礼を云いたい。
けれどいまだお顔をみることが出来てない

私の前生の母は私の家内ではないか？
写真を見ていると何故か家内というより
母という感じがしてくるからだ。
母だから私をなんでもゆるし愛し
私を受け入れてくれた。
それで何か私は納得している。

私には三人の母がいる。
恋しい慕わしいお母さんがいる。

救世主の一員（二）

令和3年12月6日

真向うひた押し世界平和の祈り
いのちのあらん限り
力のあらん限り
世界人類が平和でありますように
五井先生有難うございます
と唱えるべし。
世界平和の祈りは大救世主のコトバ
大救世主が私と化して
世界平和の祈りを唱えている。
私はふだんと全く変りない。
しかし中身が全く違っている。
救世主と入れかわっている。

私は救世主。
私は救世の大光明
祈るあなたも救世主。
あなたも救世の大光明
一人一人が救世主となって
地球を大調和させ
人類の想念を光明化する
すばらしきかな世界平和の祈り
すばらしきかな救世の大光明五井先生。

地球を愛する

令和4年1月3日

私をうみ私の魂をはぐくんで下さった
地球大霊王様の恩に報いるため
大救世主の光り輝くコトバ世界平和の祈りを
毎日大霊王様にささげている。
地球なくしては私は存在し得ず
地球の日本に生まれたから
大聖五井先生の知遇を得た。
そして新しく命を頂き直し
神の分霊としての使命に邁進出来た

地球人類の業想念によって亡びるからと云って
地球を見放し他の星に移ろうなどとは
　一つも思わない
この愛する地球にとどまり
たとえ肉体を失ってのちも
地球波動圏からはなれず
世界平和の祈りの大光明を
地球に放ちつづける

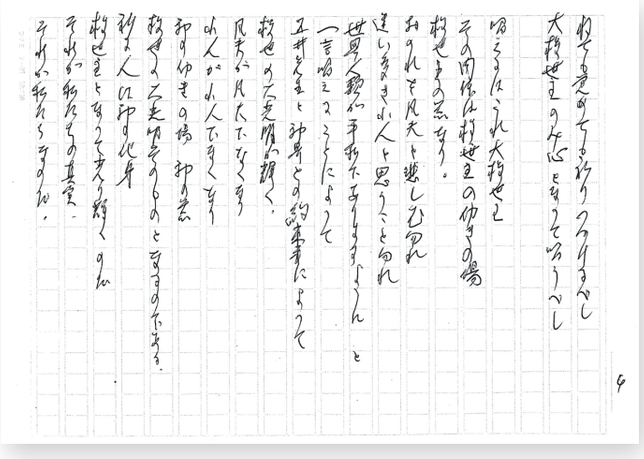
地球と私は運命共同体
世界平和の祈りが提唱され
祈り人がある以上

（二）

令和3年12月6日

真向うひた押し世界平和の祈り
いのちのあらん限り
力のあらん限り
世界人類が平和でありますように
五井先生有難うございます
と唱えるべし
世界人類が平和でありますように
世界平和の祈りは大救世主のコトバ
大慈大悲のこころ
ねても覚めても祈りつづけるべし
大救世主のみ心となって唱うべし

唱えるはこれ大救世主の仏きの場
その肉体は救世主の器なり。
救世主の器なり。
おのれを凡夫と悲しむ勿れ
迷い多き小人と思うこと勿れ
世界人類が平和でありますように　と
一言唱えることによって
五井先生と神界との約束事によって
救世の大光明が輝く。。
凡夫が凡夫でなくなり
小人が小人でなくなり
神の仏きの場　神の器
救世の大光明そのものとなるのである。
祈る人は神の化身
救世主となって光り輝くのだ
それが私たちの真実。
それが私たちなのだ。



忘れない

この世にある間
世界平和の祈り言を
心に深く深く刻みつけよう。
私は絶対忘れない
さすれば肉体を去って
どこの世界にいっても
必ず世界平和の祈りが湧き出（い）で
そこに救世の大光明が輝く。
その場は忽ち神界と化する。

○

自分の名前を忘れても
五井先生は忘れない。
五井先生は私の血肉（にく）となり
魂となり　光となり
私とつねに倶にいます。
命となって生きつづけておわす。

地球は必ず大調和する。
人類は必ず平和になる。
地球は完成する。
地球自身を私の体と思って
私は地球を愛しつづけ祈りつづける。

令和4年1月17日

聖愛

夫婦間の性愛は
本来　聖愛であって尊いもの
神に祝福された清らかな行為である。
子孫を残すためだけの行為ならば
動物たちと同じであって
そこに進歩も向上もない。
人間は神の分霊であって神の子。
親である神さまが人間のみに許された
愛の行為であり
交流を通して
お互いに長所を伸ばし合い
短所を補ない合ってゆくのである。
肉体の交流であって
心の交流　魂の交流。
ベターハーフとして
お互いを高め合い磨き合い
互いに尊敬と愛とを育ててゆく。
神さまが与えて下さった賜り物
聖愛である。



祈りの使徒

令和4年1月23日

世界平和の祈りを祈る人は
救世主の大光明を地に流し入れる祈りの使徒
神さまのみ心をそのまま受けた
尊い尊い存在である。
祈る人は男女年齢の差別なく
人種　国家　宗教の別なく
大救世主の大光明をこの地上に輝やかす
尊い尊い祈りの使徒である。

五井先生との深い縁により
この地上に生を受け
今　世界平和の祈りを
　毎日神様に人類に捧げている。
祈れば忽ち大救世主の光明の器となり
大救世主の仂きの場となり
人類の光明化
　地球の大調和に絶大なる貢献をする。
神への感謝　大地への感謝　両親への感謝
空気への感謝　水への感謝　食物への感謝
肉体への感謝　海への感謝　山への感謝など
平凡に徹した行事にエネルギーを傾注し
平々凡々たる人生を送っている我々は
尊い尊い祈りの使徒である。
平凡なる夫婦であるが故に
平凡なる社会人学生であるが故に
我々は掛け替えのない尊い存在となった。

世界平和の祈りなくしては
地球人類は平和にならない。
地球自体が大調和しない。
友よ　祈りの使徒よ
今　あるがままで祈りつづけよう
ねたきり老人はねたままで
障害ある人は障害のあるままで
祈りつづけていこう。
我々は平和の祈りの使徒。
地球平和を創る神の子である。





第十七巻　編集後記

「有難う」第一巻をお届けしてから丸五年経ち、この巻で六年目に入ります。
発刊だけでなく、紙面割、イラストや色合いのデザインも高橋先生は大層お気に召したようでした。送っていただいた詩の文字起こし、校正、デザインなど、皆さんの協力で仕上がっていることに改めて感謝です。
ごく一部ですが直筆の写真も載せていますので、迫力を感じていただけましたら幸いです。

令和八年十月吉日　O・K

編集 発刊　白光真宏会 大阪支部
住　所　〒550-0002
大阪市西区江戸堀2-7-32
ネオアージュ土佐堀303号
TEL　06-6444-8620
FAX　06-6444-8620